

Tokyo  
Steel-rib  
Fabricating  
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

2016 年 (平成 28 年)

新春号

[第 25 号]

発行 東京鉄構工業協同組合  
〒 104 東京都中央区八丁堀 3-9-5 KSビル6階  
- 0032 TEL : 03 (5566) 1595  
FAX : 03 (5566) 1597

写真  
勝鬨橋



「今だからできる業界の見直し」

理事長 飯田 歳樹

東構協・東構協協力会社の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年はビックチャンス之年と申し上げましたが、皆様はどうでしたでしょうか。

北陸新幹線の金沢までの開通、ラグビーW杯日本3勝の快挙、ノーベル賞日本人受賞者などの良いことがあった一方、基礎工事の偽装発覚、パリ同時テロ、東京五輪エンブレム・新国立競技場の白紙撤回、過去3番目のエルニーニョ現象発生(暖冬)など良くないことも起こりました。

我々の業界においても、発注量の一定確保、先行きの底上げ感などの動きがあった一方、設計承認の遅れによる山積崩し、人材不足によるフラストレーション、基礎工事偽装発覚による発注遅延

等、よし悪しが混在した年だったような気がいたします。

今年においては、北海道新幹線開通、主要国首脳会議伊勢志摩開催、参議院選挙で18歳からの初の選挙権、リオデジャネイロのオリンピック開催、アメリカ大統領選挙(11月)など話題豊富な一年になると思われず。

業界においては、上期の発注遅れはあるものの昨年同様以上の仕事量が期待できると思われ、人材の確保、工場設備の充実、工程管理、品質管理、安全確保、コスト管理など、やらなければならないことが多くなるのではないのでしょうか。

繁忙期を乗り越えるための策を各々が課題としてとらえ、対策を立て、実行し、前進あるのみです。

また、我々を取り巻く環境に目を向けると、全構協は構造物の鉄骨発注を、発注者よりゼネコンを通してではなく、「分離、独立の形態」をとり直接発注していただくことを国交省・各地方公共団体等に働きかけをすることを要望していくことになっております。

これは我々ファブリケーターの長年の夢であり、希望でもあります。

当然、我々にもやるべきことがあり分離発注に備え、品質・工程管理だけでなく技術の向上にも目を向けなければならないでしょう。

さらに、全国の支部との交流会が現在実施されています。各県との対面、対話を通してお互いを理解し、今直面している業界の問題、各地方との環境の違い、設備・人事の問題等を、お互い膝を突き合わせて本音で、話していきたいと考えております。

それらの活動を通して、公私ともに腹を割って話すことをして各地方との垣根を乗り越え、仕事だけでない隣人を作り、組合・協力会社を発展させていきたいと考えております。

(株)飯田製作所社長

## 組合理事役員 年頭のあいさつ

### 「70年代ポップス」



理事・相談役  
共済事業委員長  
**池田 英敏**

5～6年ほど前だったか、ロングランを続けている劇団四季のミュージカル「マンマミーア」を鑑賞したことから、アバのポップスに嵌ってしまった。

20年前ごろから劇団四季のミュージカルを観賞しには行きましたが、これほど曲に、深く感銘を受けたことがなかった。早速、CDを買って求め週に何回となく聴き、また録画をしてある映像を見ながら、至福の時間を過ごしている。

そもそもマンマミーアは、1970年代に、ヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアで人気を獲得したスウェーデンが生んだポップスグループ「アバ」のヒットナンバーで構成されたミュージカルストーリーで、ロンドンで10年以上も大ヒットを続け、2009年に日本の劇団四季によって公開された。

なかでもダンシングクイーン、ギミーギミーギミー、ザウィナー等は、大ヒット曲である。4人のチームワークと、素晴らしいハーモニーには魅了されてしまう。澄み切った慈愛のある音声と詞には物悲しさが醸し出されている。

ベニーアンダーソン・アンニーフリード・ビョルンウルバース・アグネッタフォルツコグの頭文字で2番のBを逆に使用しABBA名をつけたとのこと。マドンナやレディガガ等の多くのアーティストも影響を受けたとい

う。

数多くの曲のなかでも、リードボーカルでのアグネッタの「I don't wanna talk」で始まる「ザウィナー」が一番好きである。“勝者がすべてをさらっていく。敗れた者は勝利者のそばでただ小さくなっているだけ。それが運命”このような詞を聞いていると自分ひとりの世界にいるアグネッタが、離婚後間もない人間の感情を押し殺して大事に歌う姿は、私の心に心地よく響き陶酔の世界に落ちていってしまう。

クラシックであれ、ジャズであれ、音楽は良いものですね!!音楽に国境がありませんものね。

(池田鉄工(株)会長)

## 大災害に対処する方法



副理事長  
総務・広報委員長  
**松田 清明**

およそ16万年前、東アフリカに生息していたホモサピエンスが、その生存領域を世界各地にひろげていきました。そしてその土地、その土地での気候、風土、食物に順応したそれぞれの身体的特徴をDNAに蓄積していきました。といっても外見的に少し変わっただけで、あくまでも一族一種であります。今までは5大陸と島嶼の隅々にあふれるばかりに生息しています。

そして地球が太陽系の一員として誕生してからは、はるかに長い年月を経化してきました。生物の芽が生まれ、爆発的に多様な種が生まれ消滅し、現在の姿になっています。地球の歴史からみればほんの一瞬のできごとです。地球はその間、絶えず変化し続けてきました。現在もまさしく変化の一過程であります。

東日本大震災を映像で目のあたりにし、またその現場を訪ね、復興の進み

具合を毎年チェックしております。そしておぼろげではありますが、地震を含む大災害に対処する方法がみつかりました。

いつ何どき、どこで発生するか分からないものを完全に防ぐことは絶対にできっこない、もし巡り合った時は慌てず、騒がずというのが結論です。そして被害にあわなかったら、被害を受けた人たちにできるだけ多くの援助をしていく所存です。

建築業の一端を担うわれわれ鋼構造物製造業者は自己の責任において不良品を造らず、そして絶えず技術の研鑽に励み、会社と従業員の安寧を図っていきたく思っております。

(松田鋼業(株)社長)

## 学習能力のある業界に



副理事長  
運営委員長  
**武田 忠義**

平成28年が明けた。鉄構業界にとって今年はどうのような年になるだろうか。毎年のように年初は秋口から需要は急増すると取り沙汰されるものの、実際はその通りになったことがない。

期ズレをその理由にあげる関係者は多いが、これをさらに探っていくとゼネコンと施主の金額交渉の難航、設計の抜本的な見直しと図面承認の遅れ、現場の監・管理者や技術者、現場専門業者の不足など複合的な要因が大きな課題として横たわっていることが分かる。計画の立案から積算、作図、管理、調達、現場まで各工程において業界全体の対応能力が大幅に減少していることは誰の目にも明らかである。鉄構業界の問題のみならず、建築業界全体の問題として捉えて真剣に対処すべき時代を迎えていることは間違いない。

鉄骨需要は今年も秋口から急増する

との見方が大半を占める。懸念材料はやはり期ズレにあるが、今年は取り巻く環境がやや異なる。首都圏では4年後に開幕する東京五輪に照準をあてた物件が多く、「工程遵守は至上命題」とする関係者は少なくない。対応能力が限られたなかで何が起きるかは明白である。物件の優先性である。五輪前と後に大きく振り分けて優先順位に応じて着工するという流れになるものと予想される。実際にそうした方向に進みつつある。

鉄構業界も対応能力が限られている。この数年の需給状態から、それが鮮明になりつつある。地方の課題は残るが少なくとも首都圏は当面、需要に不安材料はない。従って多少、目先の手持ちが減っても焦る必要もない。

これは適正な受注価格の実現に向けて業界が最も重要な時期を迎えているといえる。まさに正念場でもあろう。

一社の低価格が一人歩きし、全体の相場を崩す場面をわれわれは何度も経験し、最終的に何が起きるかをみてきたはずである。「学習能力のない業界」と揶揄されないように今一度、一人ひとりが真剣に考えるべきであろう。

(叶産業(株)会長)

## 「2015年」



副理事長

吉岡 晋吾

2015年の鉄骨業界を振り返ると全体的には右肩上がりの状況であったように思われるが、その反面、いろいろな問題が山積みのままにあるのが実態である。なかでも人材不足の問題は、さらに深刻になっているのではないかと思わざるを得ない。われわれの業界だけではなくすべての業界に当てはまり、特に建設業界のそれは死活問題となっている。

私も常にイメージしながら昨年一年取り組んできた結果、やはり一番重要なことは、現在従事している従業員に対しての教育や作業環境の改善ではないかと思う。

現状に満足するのではなく、常に自分のスキルアップをめざし、それに対して会社は、働きやすい作業環境を提供することなど、お互いに切磋琢磨することで足元を固めることが一番大切

であると実感した。

また、事業や技術を継承することも忘れてはならない重要事項だ。これは、継承させる側の気持ちと継承しようとする側の気持ちが合致することでスムーズな継承が自然にできてくるものだと思う。それによって会社の団結を強固なものできるはず。

そして、同業他社とのコミュニケーションも極めて大切で、情報交換を密にともに同じ価値観を持つことで横のつながりを広げることが、のちに必ず各人の財産になると考える。積極的に外に出て懇親を図って貰いたい。

(吉岡工業(株)社長)

## 春のしらべ



理事

森 明

私どもの東構協の新年賀詞交歓会は、ここ数年、毎年のように音楽演奏で健やかな新年を迎えております。演奏を楽しみにしているお客さまもい

## 青年経営者委員会が総会開催 新幹事長に松田一朗氏を選出

青年経営者委員会（幹事長＝吉岡晋吾・吉岡工業社長）は15年7月31日、千代田区の東京国際フォーラムで平成27年度（第25回）通常総会を開き、役員改選で、新幹事長に松田一朗氏（松田鋼業専務）を選出した。

総会では議長に吉岡幹事長を選出。平成27年度事業計画・予算などの議案を承認した。このうち、27年度事業計画では①会員数の拡大②人材の確保および育成――を活動方針とし、①他県青年部との意見交換②関係団体

（関東ブロック、全青会）に対する協力――を事業計画とした。年6回の幹事会や他県交流会などの研修行事も実施していく。

任期満了に伴う役員改選では、新幹事長に松田氏を選出、副幹事長に中川内伸吉氏（中川鉄工所社長）、池田和隆氏（池田鉄工社長）、幹事に森芳恒氏（日本鉄構建設工業社長）、前田茂昭氏（前田製作所社長）、会計に金本貴範氏（日伸鉄工建設専務）を選出した。

松田新幹事長は「吉岡氏は14年間幹事長を務め、残された功績も大きいものがある。とくに横のつながりや仲

間意識の構築に多大な努力を払ってこられた。その思いを大切にして事業を引き継ぐ」と抱負を述べた。

飯田歳樹理事長（飯田製作所社長）の来賓あいさつのあと、全体会議を開き、全青会活動や研修会事業などを協議した。



らっしゃると、微笑ましい噂を耳にして満悦し、本年もまた準備を進めています。

私の音楽との関りは、戦後の目まぐるしい時代に少年期を過ごし、中学生まではアチーブの音楽理論が音楽だと思ひ、音楽はつまらない物と思っていました。しかしながら、子供の成長期に購入したピアノに、後世、自動演奏装置を付けて自動演奏を聴き楽しむ傍ら、演奏に合わせて、下手ながらサクソホーンの練習を続けています。

四十の手習いとは聞きますが、聞いたこともない七十の手習いを続けるのは、音楽には聴く楽しみと同様に、奏でる楽しみがあるからです。

私たち東構協の仲間は、毎年年頭に音楽を聴くことを楽しむと同時に、すっかりなじみになったプレーヤーの方々に、年頭の演奏の楽しみを送り続けているのです。

ただ、演奏と仲間やお客様の歓談の場が一緒になり、全ての観客が歌手や演奏者と一体になれずにいることが残念であると思っています。

演奏者は、会場の全員が演奏に傾聴し、満場の拍手喝さいで呼応出来れば、観客同様さらに大きい喜びを得て頂けます。

新年会の始まる前の一時に新春コンサートを集い、願わくば、新年会歓談中にはバックグラウンドミュージックとして、華やかな春のしらべを奏でて頂ければと思っています。

(日本鉄構建設工業(株)会長)

## 「年々歳々花相似」



理事

角鹿 茂

「年々歳々花相似、歳々年々人不同」という有名な唐代の漢詩の一節があります。日本では「月日で人は変わっていくが、自然に変わりはない」として、どちらかといえば肯定的に使用していますが、この詩の表題は「代悲白頭翁」と悲しげで、全体を通して見ると「自然は変わらないが、“無常”にも人は変わっていく」と、日本でのイメージと、逆の印象を受けます。

同じく中国の名詩「国破山河在、城春草木深」(「春望」杜甫)などでも、栄枯盛衰を直接的な表現で嘆く詩文が多く、あるいはそれが普遍的な価値観

なのかもしれません。

日本でも悲嘆する詩歌も多いですが、人気のある芭蕉の名句「夏草や兵どもが夢の跡」では同じく“無常”を扱いながらも直接的な嘆きはなく、むしろ清涼感さえ感じます。

こうしてみると、日本人は“無常”を肯定的に受け入れている文化があるのではないかと思います。それは仏教の教えもさることながら、毎年のように発生する台風や水害、時に地震や噴火など自然災害により財産や生命などが脅かされ、各人が実体験として“無常”を味わっているからではないでしょうか。

昨年は茨城県で水害が発生し、今年もなんらかの自然災害が起きることでしょう。

この“無常”をまず受け入れると同時に、嘆くことなく皆で協力しながら、よりよい形にして立て直していくのが日本文化だとも思います。

われわれの持つ鉄骨造に関する技術と知識が、その一翼を担っていると考えています。「年々歳々花相似、歳々年々人不同」と時を重ねていくなかでも、この自負心や思いが、後代のファブに続いていくと信じています。

(株)角鹿鉄工社長

### 結婚支援事業「ハートフルパーティ2015」

#### 4組のカップルが誕生

7月5日、東京都中央区日本橋の「ホテルオークラレストラン、ニホンバシ」で結婚支援事業「ハートフルパーティ2015」を開催。組合員の従業員15名と結婚を考えている女性15名の合計30名が参加。最終的に15組中4組のカップルが誕生した。

組合企業の従業員が日ごろの業務のなかで女性との出会いが少ないため、組合が支援。青年経営者委員会の池田和隆氏(池田鉄工社長)が業界を紹介

し、「皆さんの良い出会いになるよう祈念している」と挨拶を述べた。

パーティはまず、15組でローテーションを組み、それぞれ3分間会話。続いて、5つのテーマを話し合うカテゴリートークやさらにフリートークなどを行い、最終的にお互いが意中の相手をカードに記載。それを事務局で集計して、成立カップルを発表した。

中川内伸吉副理事長(中川鉄工所社長)は「4組のカップルができ、開催した意義があった。われわれの業界では、女性

となかなか知りあう機会がなく、昔のような世話役もいなくなってしまう。今後もこうした事業を続けていくことを検討したい」と述べた。



## 特定機密



理事

坂爪 幸男

戦後 71 年の 2016 年度防衛予算が初の 5 兆円超えとなるようである。

防衛費の増額は第 2 次安倍政権になって 4 年連続で伸び続け、5 兆円を突破するのは間違いないであろう。

一国の経済発展及び国民の豊かさ・安心・安全を築き上げるのは、国の安全保障からということでしょうか。日本は戦後、戦争放棄を憲法第 9 条でうたい、不戦の誓いをした。

しかし、ここにきてようすが少し変わってきたようだ。

中国の海洋進出、沖縄県の普天間飛行場、尖閣諸島の問題等、国の内外を含めて噴火のごとく問題が起きている。

もちろん、国はこのことを十分考えて行動していると思う。偶然ではないだろうが、この国は東日本大震災によって、日米の連携調整メカニズムが見直された。日米両政府と自衛隊、米軍等が横田と市ヶ谷と仙台に拠点を設けていたが、混乱を生じ、十分な機能

を果たせなかった。

これらの状況から、日米の防衛システムが制服組「平時からの協力」が誕生し、「共同運用調整所」が市ヶ谷の防衛省と在日米軍司令部のある横田基地に置かれる見通しらしい。

すでに、横田基地にある航空自衛隊航空総隊司令部の地下室に作られた空自と米空軍による弾道ミサイル防衛 (BMD) の拠点であるところのこのシステムが機能すれば日本の防衛、防災システムが格段に向上することは否めない。しかし、この高度の軍事機密はわれわれ国民の知り得る重要な権利を 2015 年 12 月 1 日に完全施行された特定機密保護法によって隠蔽されうることを警鐘として筆をおきたい。

(榎坂爪建鉄工業社長)

## 「ソフトボール審判員」



理事

小室 節夫

小学校のころから軟式野球を続けていたが、30 歳を過ぎた頃から地元チームでソフトボールを始めた。球が大きいため、やさしいスポーツに見えると

思うがとんでもない。マウンドが近いことから恐ろしくストレートは速く、基本的に下方向の変化しかない野球と違い、大きく浮き上がる変化球があるなど、本格的に野球をプレーしていた選手でも手ごたえのあるスポーツだ。

仕事と同じく、常にフィールドで動き回りたいが、50 代になると選手として試合に出られないことが多くなった。代わりに熱中しているのが審判員として出場することだ。

ソフトボールの審判員の資格は 1～3 種がある。取得には 3 種が講習会のみ、2 種になると学科と実技の試験がある。40 代で 3 種を取得し、現在は 2 種審判員だ。

ソフトボール同様、審判も一般的なイメージと違って、体力がないと務まらない大変なものだ。

例えば、クロスプレーを判断するためには積極的に動いて判断に適したポジションに移動する必要があり、また、打球に接触することもある。1 日でだいたい 4 試合を務めるが夏の炎天下での試合ともなれば、体調を崩してしまう審判もいる。

大変な仕事だが、高校生の大会などで学生最後の試合という時もあり、彼らのためにもしっかりとしたジャッジをしなければならぬと気が引き締まる。今後は 1 種の取得を目標に、さら

## 平成 27 年度通常総会開く

「鉄構業界と専門紙」をテーマに研修

当組は昨年 5 月 26 日、東京都千代田区のアルカディア市谷で平成 27 年度通常総会を開いた。

飯田理事長欠席のため、吉岡晋吾副理事長が代行。吉岡副理事長は「繁忙期を迎えているが、多忙の割に利益がついてきていない。また、今年後半からさらに仕事量が増えると聞いているが、浮足立たず今から対応策など準備

していくことが大切。今後も組合活動へのご協力や支援をお願いしたい」とあいさつを述べた。

総会は、平成 27 年度事業計画・予算などすべての議案を滞りなく拍手で可決。継続事業に加え、東京湾岸 3 都県鉄構組合合同戦略会議（略称 = Tokyo Bay3）や『独身社員の婚活』などの事業も盛り込んだ。総会終了後には、研修行事として講演会を開催。

鋼構造ジャーナルの大熊稔編集長が「鉄構業界と専門紙」をテーマに講演した。



なるレベルアップをしていきたい。

(株)小室鉄建社長)

## 今一度、原点に



理事代理

村木 晃次

昨年は、世相を表す清水寺の揮毫の「安」という字の通り、世界各地でのテロ事件や異常気象に見舞われ、国内においても食やわれわれの関わる住の安全性について改めて考えさせられる年でもありました。

今年には申年です。猿は人間に1番近い知性の高い動物ですが、「猿も木から落ちる」との諺のように賢いが故に油断して失敗し、誤ったりします。

今一度、原点に立ち返り先輩方々より与えられたものを受け継ぐだけではなく、時代の環境に合わせて工夫し「焦らず、驕らず、あきらめず」確実に前を向いて今年1年乗り切っていきたいと思えます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈

りし、書中をもちまして御礼かたがたご挨拶申し上げます。

(株)アイ・テック営業部課長)

## テレビドラマ「下町ロケット」から



監事

中込 千秋

昨年末にテレビドラマ「下町ロケット」を見た人も多かったことと思えます。JAXAを経て父親の後を継いだ「佃製作所」の社長・佃航平は研究者兼技術者で、絶えず夢とロマンを持ち、その実現に向けてまっしぐらに突き進むタイプの中小企業の経営者である。

「技術には大企業も小企業もない。あるのはいかに真剣に取り組むかだ」と「帝国重工」をはじめ他の上場の一流企業の製品や部品を凌駕するものを造り、時には摩擦もいとわず突き進み、従業員もこの個性の強い社長の下にそれぞれの部署で競い、摩擦も繰り返しながら最後には納得して一つの目

的に向かって一丸となって突き進む闘う企業集団であった。国家的プロジェクトともいふべき、ロケットの主要部品「バルブエンジン燃焼システム」を完成させて打ち上げに成功した。また、ドラマの後半では人体で人の命を救う心臓の部品づくりも完成させて、人のため、社会のために邁進した。

このドラマをみて大いに感銘を受け、私たちの業務にも学ぶべき点が多いと思うのは私だけでないだろう。組合傘下の鉄工所はM・Rグレードが多く、そのほとんど中小企業で、その鉄構物の品質は大企業に負けないものができるはずだと思う。品質の良否は大企業、中小企業に関係なく、どれだけ全社的に一丸となって取り組んでいるかにかかっていると思う。

われわれの造っている鉄構物は社会資本であり、世間に言われている首都直下型や南海トラフの大地震はもちろん、ほかに地震や自然災害にもびくともしない強固な鉄構物を提供することで国民の尊い生命を守るという社会的任務を背負った業種である。誇りと社会的使命を持ち、今後も邁進していきたいと思うこの頃である。

(株)中込工業所社長)

### ◆全東京鉄構3団体が研修旅行 —駒井ハルテックとアイ・テックを見学—

当組合と鉄工建設業協同組合(理事長=國谷七三夫・國谷製作所社長、略称=鉄工建)、東京足立鉄骨工業会(会長=角鹿勝保・角鹿鉄工専務、略称=東足会)の東京鉄構関連3団体は6月28、29の両日、千葉県で恒例の「東京鉄構3団体研修旅行」を開いた。研修会には各団体の理事をはじめ会員、会員の従業員ら約30名が参加した。

28日は千葉県安房郡鋸南町の温泉旅館「紀伊乃國屋」で懇親を深め、翌29日にはSグレードファブの駒井ハ

ルテック富津工場と鋼材商社のアイ・テック東京支店を見学。駒井ハルテックでは同社富津工場鉄構設計部の藤井貢部長から同社の沿革や事業、富津工場、施設などの概要のほか、鉄構、橋梁の製作工程について説明を受けた後、工場を見学した。その後、アイ・テック東京支店に移動し、同社の

円谷哲支店長が工場概要や取り扱い鋼材、設備などを説明。その後、工場見学を行い、開先、切断加工のようすや同社で生産しているC形鋼の加工工程などを見学した。



# 自主検査と第3者検査について

事務局長 加藤哲夫

昨年は建設業界にかかわる不祥事や不正の報道が続き建築構造物の信頼性を大きく損なうことになりました。

免震装置の不正は、国土交通省の性能評価の認定を取得するためにデータを偽装したものです。この装置を使って建築された公共建築物が全国に多数存在し社会問題化しました。

さらに横浜の大規模マンションの杭の不良施工問題は、杭の長さが堅固な支持地盤に達していないのに杭の施工を請け負った施工会社がデータを不正使用して達したように装ったことが発覚したものです。この事案は、実際に建物の一部が沈下していることを居住者が問題にして判明したものです。また橋梁の落橋防止装置の不良施工は、地震時に橋げたを橋脚から落下防止するために設置される鎖などを支えるアンカーのベースプレートの溶接施工を基準通りに施工せず、さらにそれをチェックする検査会社が加工会社と結託して不正を意図的に見逃していたものです。

いずれもこれらは建築物や建造物の構造的な信頼性に対する不信を大きくするもので社会的にも大きな影響を及ぼすものです。

車や電化製品等は普段消費者によっ

てその性能が確保されているか否かを常にチェック（検査）されています。本来の性能が確保されていなければ消費者からクレームが来てメーカーはただちに対応せざるを得なくなります。アメリカにおけるエアバック問題は数百万台のリコールになりメーカーの存続にかかわる問題になりつつあります。

建築構造物の性能は大地震など大きな外力が作用した時にしか判明しません。そのために製造過程の検査を製造者による自主検査や第3者による受け入れ検査など幾重にもチェックする仕組みを導入してきました。この仕組みは現在の鉄骨加工業界において製品の品質をチェックする仕組みとして十分に機能してきたと言えます。

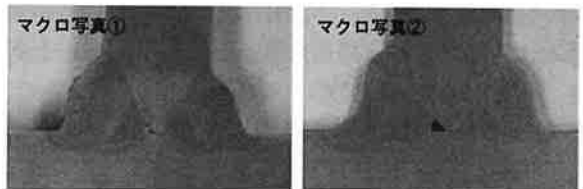
落橋防止の不良施工は、落橋防止装置取り付けアンカープレートのT字継手の溶接を完全溶け込み溶接すべきところハツリ工程を省略して部分溶け込み溶接で施工したものです。引っ張り応力が作用するところを部分溶け込み溶接施工した不良施工です。

この事案は建築鉄骨加工の製造ではなく橋脚に取り付ける落橋防止のアンカー

プレートの部品の加工であるが、加工した業者が全構協会員の鉄骨加工会社であったため、業界を挙げて永年鉄骨加工の信頼性の確保のために自助努力をしてきた全構協にとって大変残念な事と言わざるを得ません。

本来自主検査は、自らの製造過程で製品の品質を維持させるために行うものであって発注者のために行うものではありません。

鉄骨加工の工程の中で自主検査を外部に委託する場合が見受けられますが発注者側の受け入れ検査と自主検査が同じ検査会社によって行われる場合本来の第3者検査とは言えません。したがって受け入れ検査である第3者検査の発注は発注者側の責任で行われるものですが、外部委託された自主検査会社と同一検査会社で行ってはならないルールを作する必要があります。検査会社の業界団体 CIW 事業者協議会では倫理綱領に明確にそのことが明記されています。



動進橋に用いられた製品の溶接不良の状況(出典:国土交通省)

## ◆管理技術者試験準備講習会

—1級、2級とも受講者が大幅増—

当組合は昨年9月26日、鉄骨製作管理技術者試験準備講習会を開催。

同講習会は10月24日に全国一斉に実施される本試験のための準備講習会。当日は鉄骨製作管理技術者1級向けは東京・千代田区の联合会館、2級

向けはベルサール神田の2会場に分けて行われた。関東・甲信越の鉄構ファブを中心に1級211名、2級162名が受講、昨年実績比で、それぞれ1.5倍、2.1倍と大幅に増加。講師は、1級向けが羽石良一氏（建築鉄骨構造技術支援協会常務理事）、2級向けは大塚英郎氏（大林組生産技術部専門技術課担当課長）が担当した。

なお、同準備試験は1月23日にも開催される。



## 理事役員会報告

### ◆ 1月理事会 ◆

□ 1月 20日、於・アルカディア市ヶ谷□  
理事会では Tokyo Bay3 / 大規模災害時における相互支援協定書(案)を審議、これを承認した。相互支援協定書は当組合、神奈川組合、千葉工業会に所属する組合員が大規模な地震等の災害により工場など適正な活動が困難になった場合、相互支援を行う基本的な事項(目的、役割、債務等)を定めた内容。理事会終了後、同所で組合員、来賓、協力会関係者ら計 60 名を集めて新年賀詞交歓会が開催された。

飯田理事長は「わが組合は東京というすべての中心の立地にあり、幾多の試練を乗り越え、いかなる困難にも打ち勝つ術を備えた組合員が多い。業界環境は活況を呈しているが、この時期に経営体力をつけ、いずれ来る不況に備えてほしい。また世代交代を円滑に進めるうえでも後継経営者は努力という汗を流し、頑張ってもらいたい」とあいさつを述べ、事業活動の説明とともに組合活動に協力を求めた。

### ◆ 2月理事会 ◆

□ 2月 26日、於・組合会議室□  
理事会では 27 年度総会の運営について審議。このなかで会費増額の予算組み入れを承認、グレードに応じて現行に対し、約 11 ~ 20% の増額とした。また、総会への出席率を高めるため、理事役員が組合員への積極的な参加を呼びかけ、また、総会開催日案内の早期通知など、「活気のある組合活動を目指す」(飯田理事長)とする方針を確認。さらに講演会の実施、来賓参加者、懇親会の内容について協議したが、結論に至らず継続審議とした。

教育・技術委員会(委員長=中川内伸吉・中川鉄工所社長)は青年経営者委員会と合同で 3月に、東京都江東区の中川鉄工所で固形タブの施工実験を

行うことを報告、近く、参加者を募集する。また、広島県福山市で 3月に開催する全国 R・J グレード部会総会に杉本豊理事(一本木鉄工社長)、小室節夫理事(小室鉄建社長)が参加することになった。

### ◆ 3月理事会 ◆

□ 3月 26日、於・組合会議室□  
理事会で来年度予算案を審議。今年度総会で承認された会費の増額について、取り決めた増額水準では部会や委員会などの各活動費の配分が、依然厳しく、組合の活動活性化と財政健全化を目的に、額の一部見直しを決めた。

また、Tokyo Bay3 で進めている「大規模災害時における相互支援協定書」について協議、修正案を承認した。協定書は理事会後、神奈川と千葉の両鉄構組合に送付され、6月 3日に東構協組合事務局で調印式が行われる。

さらに、理事や賛助会員の予定を立てやすいよう、理事会の開催日を「原則、8月を除く各月の第 4 木曜日」と決定した。

### ◆ 4月理事会 ◆

□ 4月 23日、於・組合会議室□  
飯田理事長が怪我療養中のため、吉岡晋吾副理事長(吉岡工業社長)が議事を進行。理事会では通常総会議案書を中心に協議、平成 26 年度事業報告・決算、平成 27 年度事業計画・予算(案)を承認、総会に上程することにした。関連して司会など役割分担を決めた。

報告事項では、関東支部「NDI - UT 資格」受験対策講習会を説明。実習は栃木、新潟、埼玉のポリテクセンター、講義は埼玉ポリテクセンターで実施、開催時期は 7 月を予定、運営は東構協が担当する。

このほか、関東支部運営委員会から今秋に東北で東北支部との支部間交流を開催予定にあることや 10 月に千代田区のアルカディア市ヶ谷で関東支部役員と東構協との交流会・OB 会を開

くことを報告した。さらに、9月に鉄骨製作管理技術者事前講習を千代田区の連合会館で行うことを決めた。

### ◆ 5月理事会 ◆

□ 5月 26日、於・アルカディア市ヶ谷□  
飯田理事長が怪我療養中のため、吉岡晋吾副理事長(吉岡工業社長)が議事進行を担当。当日開催の通常総会の議案書や担当役割を中心に協議した。

報告事項では、関東支部主催の建築鉄骨超音波探傷基礎講座、関東支部運営委員会と東北支部との支部間交流、Tokyo Bay3 相互災害支援協定調印式など当面の日程を報告。さらに独身社員のための婚活パーティは 6 月にマナー講習会を行った後にパーティを実施する。また、東京鉄構組合三団体の合同研修旅行を審議、参加者を決めた。なお、当日の総会で 15 年表彰として武田忠義副理事長(叶産業会長)、5 年表彰で前田茂昭理事(前田製作所社長)に感謝状の贈呈式を執り行うことを確認した。

### ◆ 6月理事会 ◆

□ 6月 25日、於・組合会議室□  
飯田理事長は挨拶で「組合員の工場稼働、手持ち量とも各社間でバラツキが生じている。仲間意識を持って組合の活用を図ってほしい」と述べた。

報告事項のなかで、鉄骨製作管理技術者 2 級事前講習会の会場が応募者多数のため、「ベルサール神田」(千代田区)への変更を報告。1 級の会場は「連合会館」で変更はない。また、婚活パーティ男女計(30 名参加)、東構塾(講師=日本設計構造設計群・藤田哲也氏、構造設計者からみた建築鉄骨の溶接接合)など当面の日程を報告。一方、審議事項では Tokyo Bay3 相互災害支援協定調印を受けてまず、地区会の構成員同士の緊急連絡網を作成することを決め、組合としての緊急時の体制を整備することにした。これに関連して B C P 事業継続計画の説明会を実施す



る。講師や場所、開催日は継続審議とした。さらに組合定款では副理事長6名となっているが、これを見直し、現行の4名体制の運営を決定。正式には次年度総会に上程することにした。

#### ◆ 7月理事会◆

□ 7月23日、於・組合会議室□

飯田理事長は挨拶で「東京は旺盛な仕事量の出件を受けて各社の工場稼働、手持ち量とも高水準にある。ぜひとも選別受注の実施や営業努力などで利益体質の企業になるよう頑張してほしい」と述べた。

理事会では関東支部のUT基礎講座全構協支部間交流、婚活パーティ、性能評価工場審査、東構塾第5期第4回などの活動報告のほか、鉄骨製作管理技術者2級事前講習会の会場変更、関東支部共済推進会議、全国Mグレード部会幹事会、全国R・Jグレード部会幹事会、青年経営者委員会総会、関東支部交流会、関東支部女子会など今後の活動予定について協議した。

また、継続審議となっているBCP事業継続計画の説明会の実施について今後、調整作業を急ぐことになった。さらに、第2次婚活パーティの開催についても審議したが、最終的な結論に至らず、継続審議となった。理事会終了後、関東支部の岸部直喜支部長（岸本建設工業社長）の参加のもと暑気払いが行われ、交流を深めた。

#### ◆ 9月理事会◆

□ 9月24日、於・アルカディア市ヶ谷□

理事会では10月開催予定の「関東支部会および事務局長会議並びに東構協理事役員との交流会」を審議。全員参加を決議するとともに、支部会への提案を事前に検討、当日直前に開催する理事会で詰めることにした。このほか、UTフォローアップ講習会、鉄骨製作管理技術者事前講習会、後期性能評価申請説明会、東構塾、固形エンドタブ技能検定など活動状況を報告。

引き続き、同所で行政書士事務所ヒカリノの伊藤知子氏を講師に招き、「中小企業におけるBCPとは」をテーマに講演会を開催した。伊藤氏はBCP（事業継続計画）の説明とともに、東日本大震災の被害・復興、首都圏直下型地震の被害想定、BCPの内容とその必要性、策定方法などを分かりやすく説明。とくにBCP導入企業の成功事例や混乱した事例などを紹介したうえで、「その策定と導入は経営改善に大いに役立つ」と強調し、事前対策の例を具体的に解説した。

#### ◆ 10月理事会◆

□ 10月22日、於・アルカディア市ヶ谷□

当日同所で行われた関東支部会に飯田理事長出席のため、吉岡晋吾副理事長（吉岡工業専務）が議事進行を代行。理事会後に予定される関東支部役員・事務局長との交流会議について提起する課題を審議。その結果、①適正な加工単価の維持と業界の共通認識②受注時の支払い条件③全国Mグレード部会連絡協議会の加入促進④法定福利費に対する各社の対応⑤人材確保への対策——などを決めた。提案者が意見説明を行い、吉岡副理事長が会場に上程することになる。

また、第2次鉄骨製作管理技術者事前講習会（1・2級向け）を来年1月に東京都千代田区の連合会館で実施。さらに組合広報誌「リポート東構協」を1月に発行する。年内に原稿を取りまとめる。このほか、関東支部運営委員会と東北支部との交流会や関東Hグレード商社会合同全員協議会（などの活動予定も報告した。

#### ◆ 11月理事会◆

□ 11月24日、於・組合会議室□

理事会では全国鐵構工業協会、関東支部、3支部（関東・中部・中国）交流のほか、同組合の総務・広報委員会、教育・技術委員会、共済事業委員会、各グレード部会、東構塾などの活

動を報告。引き続き、来年1月開催の賀詞交歓会など当面の事業活動について審議した。賀詞交歓会は1月19日に千代田区のアルカディア市ヶ谷で開催、当日の来賓（招待者）などを決めた。全体のスケジュールや司会担当など役割分担は次回理事会で検討する。また、第2次鉄骨製作管理技術者事前講習会（1・2級向け）を1月に東京都千代田区の連合会館で実施。さらに出張理事会は「箱根開催」を候補とし、年度内実施の方向で今後、詰めることになった。組合広報誌「リポート東構協」は賀詞交歓会での配布を目指し、年内作成で編集作業を進めていく。なお、新規組員として日伸鉄工建設（東京都葛飾区西新小岩4-8-5、金本茂社長、Mグレード）の入会を承認、これで組員数は54社となった。

#### ◆ 12月理事会◆

□ 12月16日、於・組合会議室□

飯田理事長は挨拶で、理事役員に対して1年間の活動に労いの言葉を述べた後、「われわれは次世代に事業を継承し、夢を持って物をつくる業界に責任がある。その使命を忘れずに来年も協調して頑張ろう」と強調した。

理事会では全国鐵構工業協会、関東支部、支部運営委員会の関東・東北支部間交流のほか、同組合の総務・広報委員会、教育・技術委員会、共済事業委員会、各グレード部会、東構塾などの活動を報告。このなかで鉄骨製作管理技術者事前講習（2次）について「1級70名、2級53名の申し込みがあり、満杯状況」と説明された。また、地元優先発注の活動について飯田理事長は「東京足立鉄骨工業会、鉄工建設業協同組合とも連携して推進していく」との意向を示した。来年の賀詞交歓会など当面の事業活動について審議。当日のスケジュールや司会担当など役割分担などを決めた。さらに2月19日開催の出張理事会は「箱根開催」とし、ホテル選定を急ぐことにした。

## 交流・部会事業 を積極的に推進

### ◆固形タブ溶接技能者技量検定試験 千葉で開催、36名が受験 —Mグレード部会—

全国Mグレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務）は昨年11月7日、「固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験」を千葉市稲毛区のポリテクセンター千葉で開催した。受験者は千葉、神奈川、群馬、栃木の4県から新規・更新合わせて36名とこれまでで最多となった。同部会の主催による固形タブ検定試験は12年10月に初めて実施されて以来、今回で5回目。

同検定試験は座学と実技試験の2部構成。座学は新規受験者が対象で、神

奈川鉄構業協同組合Mグレード部会の石井二三夫部会長（石井鉄工所社長）が講師を務め、鋼製タブを巡る問題点、固形タブの取り付けやアークスタートの位置、溶接条件、外観検査の注意点などを解説した。

続いて行われた実技試験では梁フランジと通しダイアフラムの異幅継手部を模した試験体を使用。新規・更新の受験者が組立溶接して試験体を製作した後、4台の溶接機に分かれてレ型開先継手の完全溶け込み溶接に臨んだ。

当日は千葉県鉄骨工業会技術委員の田中直人理事（伸誠工業建設部長）と鈴木義治理事（鈴建ホーム社長）らが立会人となり、溶接を終えた試験体の外観を検査。割れ、アンダーカット、ピット角の溶け落ちなど溶接欠陥の有無を判定基準に従って厳正にチェックし、外観について

はすべての試験体を合格とした。

後日、これらの試験体は、第三者機関のUT検査、マクロ試験を経て11月開催の判定委員会で最終的な合格が判定される。12月中には合格者に資格証が発行・送付される予定だ。

同検定試験は、当組合が独自に実施していた「代替エンドタブ技能検定試験」を継承、発展させたもの。Mグレード以下が手がける工事規模を想定し、板厚40<sup>mm</sup>未満の母材溶接に適用される技能資格の普及を目的とする。



## 東 構 塾

### 池田鉄工・相模原工場を見学 第5期3回目

15年4月18日、池田鉄工の相模原工場（神奈川県相模原市）を見学し、同所で勉強会を開いた。

池田鉄工は1957年創立で、従業員は34名、年間生産能力は約3600<sup>t</sup>。

同工場を訪れた東構塾の羽石塾長と塾生ら一行は、会社概要の説明を受けた後、工場棟1階で一次加工ラインや、枠付き耐震ブレースの組み立てと溶接、大組立を終えた柱部材の仕上げ塗装などのようすを見学。次いで2階で、耐震ブレース部品の製作、仕口コアのロボット溶接やCAD室での作図作業を見て回った。

なかでも耐震ブレースの製作に塾生の関心が集まり、部材の加工や組み立ての手順、枠鉄骨とブレース材の接合部などを熱心にチェックする姿がみられた。

### 日本設計の藤田氏が講話 第5期4回目



15年7月11日、日本設計構造設計群主幹の藤田哲也氏を講師に招き、溶接接合部について構造設計上の考

え方を学んだほか、各社が日頃抱える製作上の問題を巡って意見交換した。

講義の部では、藤田氏が「構造設計者から見た建築鉄骨の溶接接合部」のテーマで講話。『溶接接合設計施工ガイドブック』に基づき、①地震力を受けた場合に応力が集中する柱梁接合部の要求性能や溶接ディテール②継手形式と溶接の種類、継手の性能に関わる要因③入熱・パス間温度の管理をはじめとした溶接施工の要点や品質管理の留意点などを解説した。

ディスカッションの部では溶融垂鉛めっき製品の一部を「不めっき」にする際の有効な方法について議論した。

### CADをテーマに意見交換 第5期5回

15年10月11日、塾生ら13名の出席のもと各社が工場製作や現場施工で日頃直面している実務上の問題を巡って意見交換した。

今回のディスカッションの主なテーマはCADで、塾生からは「専用CADと汎用CADにはそれぞれ得意、不得意があり、作図用途に応じて上手に使い分けた方が良い」、「例えば、耐震補強用K型ブレースの作図のように専用CADでできないことを汎用CADで補っている」、「当社では専用CADを積算段階から使っている。手拾いよりも数量が正確に出るので、原価管理がより容易になる」などの回答が寄せられた。



## 「Tokyo Bay3」 災害時相互支援協定を締結

東京湾岸1都2県鉄構組合同戦略会議（略称 = Tokyo Bay3）は昨年6月3日、当組合同議室で「大規模災害発生時における相互支援協定」の調印式を行い、締結した。

調印式には東京から飯田歳樹理事長と吉岡晋吾副理事長、谷村忠行理事、前田茂昭理事、千葉からは栗原宏理事、神奈川は岸部直喜理事長、石井二三夫副理事長、各組合同務局長が参加。同協定の趣旨である大規模災害発生時に県の枠組みを超えた相互間支援

は、各県組合同で災害対策および行動指針を策定し、県内で支援できない場合に県外ファブに支援要請ができるとの位置付けとなる。このため、まず各組合同で、連絡網の設定や組合同および各地区（支部）の具体的な対応行動、防災教育、備蓄などの災害対策を早急に取りまとめるとした。

調印締結後、発起人である飯田理事長は「次世代のための事業として副理事長時代に提案し、本日、ようやく調印式を迎えること

ができた。賛同して頂いた各県の理事に感謝するとともに、若い世代の理事がしっかり引き継いでくれることを期待する」と述べた。



## 地区会員名簿

### 東地区 (24 社) 地区長 (株) 前田製作所 前田 茂昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	株式会社 M.C.S 那須	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	三進建鉄 有限会社	R
2	株式会社 アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	株式会社 日伸鐵工建設	M	19	株式会社 コイワ	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	中央ビルト工業 株式会社	R	20	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	鈴木鐵工建設 株式会社	R	21	株式会社 奥村鉄構	未
6	吉岡工業 株式会社	M	14	有限会社 高市工業	R	22	株式会社 矢萩鐵工	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 角鹿鐵工	R	23	有限会社 幸栄工業	未
8	富士工業 株式会社	M	16	林鐵工 株式会社	R	24	津覇車両工業 株式会社	未

### 中地区 (11 社) 地区長 (有) 金谷鐵工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鐵工 株式会社	M	5	有限会社 金谷鐵工所	M	9	小久保鐵工 株式会社	R
2	松田鋼業 株式会社	M	6	井上鐵工 株式会社	M	10	有限会社 大橋鐵工所	未
3	東京建鉄 株式会社	M	7	株式会社 三侑鐵工	M	11	株式会社 帝都建工	未
4	株式会社 鎌建工業	M	8	有限会社 修和鐵工	R			

### 西地区 (19 社) 地区長 (有) 坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	8	有限会社 坂爪建鉄工業	M	15	株式会社 河村鐵工所	R
2	川岸工業 株式会社	H	9	株式会社 小室鉄建	M	16	有限会社 山上建設工業	R
3	株式会社 矢嶋	H	10	有限会社 天野鐵工所	R	17	株式会社 高水鐵工	R
4	小島工業 株式会社	M	11	株式会社 一本木鐵工	R	18	有限会社 石川鐵工	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	12	株式会社 酒多鐵工所	R	19	株式会社 ヤマトミ	R
6	井戸鉄建 株式会社	M	13	島崎工業 株式会社	R			
7	株式会社 かしや建設工業	M	14	有限会社 中央製作所	R			

## 東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者	役職	業種・取扱商品
				E-mail		担当者		
副会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430 honbu@fujimikougyo.co.jp	03-3314-5818	石塚 勲 蒲生 紘一郎	代表取締役	高圧ガス、溶材 機械、工具
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区早濑1-28-18	045-594-1923 fumio.hashimoto@amada.co.jp	045-591-9460	橋本 文夫	副ブロック長	パッド用ブレード
幹事	大同生命保険(株)首都圏地区営業本部	103-0027	東京都中央区日本橋2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021 hirata.hajime@daido-life.co.jp	03-3667-8022	平田 肇 緒方 淳	営業推進部長	生命保険 共済保険
幹事	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610 ntk@viola.ocn.ne.jp	04-2949-2209	中村 弘太郎 中村 弘美	代表取締役 常務取締役	切り板 孔あけ
監査	ダイニツカ(株)東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163 k-hujimoto@star.dainikka.co.jp	03-3552-3162	藤本 恵三	支店長	全構協指定塗料 錆止め塗料
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031 takahashi@kaken.net	03-3684-8042	高橋 亨	代表取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株)南流山事業所	272-0163	千葉県流山市南流山3-10-7	04-7157-7735 t.konishi@sanko-techno.co.jp	04-7157-8835	小西 隆夫 中村 正孝	事業部長 係長	建築金物製造販売
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817 seiwa@seiwa-web.net	03-3605-3521	星野 傳弘 北嶋 重司	代表取締役 専務取締役	鋼材、建築資材 お鉢、フット、仮設機材
会長	大日本塗料(株)東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501 sinagawa-masa@star.dnt.co.jp	03-5710-4520	藤城 圭 品川 雅紀	所長 主任	全構協指定塗料 錆止め塗料
	太陽日機ガス&ウェルディング(株)八王子支社	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801 Naoki.Miyasaka@tn-sanso.co.jp	0426-31-3808	乗川 秀嗣 宮坂 直樹	支店長 係長	高圧ガス
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071 okabe@tokyo-dt.com	03-3356-9354	遠藤 裕二 岡部 直樹	代表取締役 課長	情報システム総合プランナー NTTコミュニケーションズ代理店
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231 tokoshi-odaka@sand.ocn.ne.jp	04-2998-0570	小高 進一 佐藤 庄悟	課長	ベースバック ハイベース
会計	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352 noc-t@nomura-s.co.jp	042-378-0655	野村 宗孝 小杉 勝	取締役 所長	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株)神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424 f0441@furusato.co.jp	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811 maruwa@checkerplate.co.jp	047-304-0819	中畑 充弘 阿部 孝典	代表取締役 課長	鋳鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485 misuz-film-l@tokyo.email.ne.jp	03-3642-3265	飯島 隆典 佐藤 智輝	代表取締役 営業課長	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	有修溶工(株)	273-0018	千葉県船橋市栄町2-6-7 東京フレッジ船舶機材センター内	047-433-2301 stud@yu-shu.co.jp	047-410-0575	浪花 俊勝 滝沢 健一	代表取締役 工事部次長	スタッド溶接工事 材料販売

## 編集後記

昨年11月にMRJ(三菱リージョナルジェット)の初飛行が無事終わりました。その模様はネットやTVで生中継されましたので感動的に観た方も多いと思います。

国産機としてはYS-11以来、40年ぶりの旅客機の開発です。これから公的機関から型式証明を取得するためにテスト

飛行を繰り返していくことになります。

ところがその後、開発会社から初号機の納入の時期を延期すると発表されました。それは主翼の強度が型式認定取得に必要な強度が不足していることが判明したからです。ちなみに国土交通省の型式証明を取得するには通常の飛行時の1.5倍の強度が求められるそうです。大幅な設計の見直しが必要になるのではないのでしょうか。納入延期はこれで4度目になります。これではエンドユーザーの信頼は失われてしまいます。

多くの人の命を輸送する民間機ですから安全性を第1に考えて対応していただければならないことは当然ですが、しかし主翼の強度不足は機体性能の根本的な問題です。国産機ジェット旅客機の開発と言う未知の領域でチャレンジする企業の意欲は買いますが、結果商業ペースで成功しなければ単なるモデルプレーンの開発で終わってしまいます。この試練を克服し世界の空に日本製の民間機が飛ぶ姿を見てみたいものです。

(事務局長 加藤哲夫)